

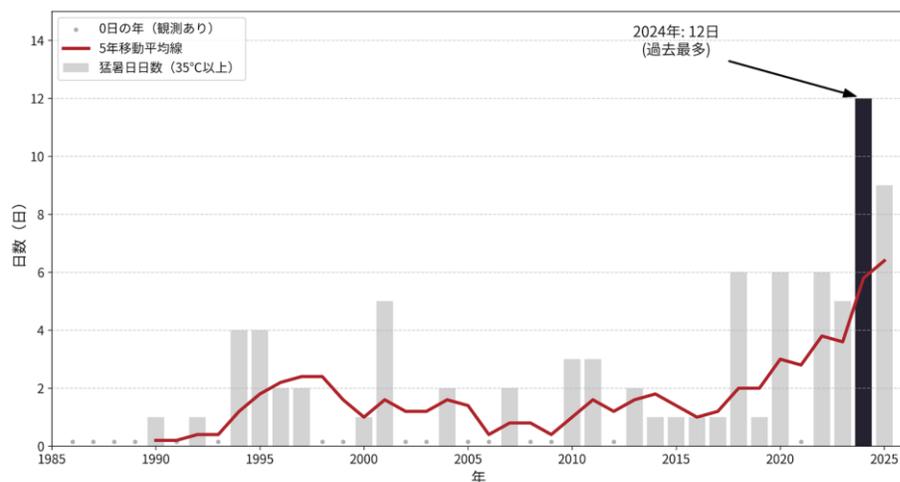


KASHIMA ANTLERS  
SAF関連PJ（KASHIMA FLY! PROJECT）

# 鹿島アントラーズが気候変動対策に取り組む理由

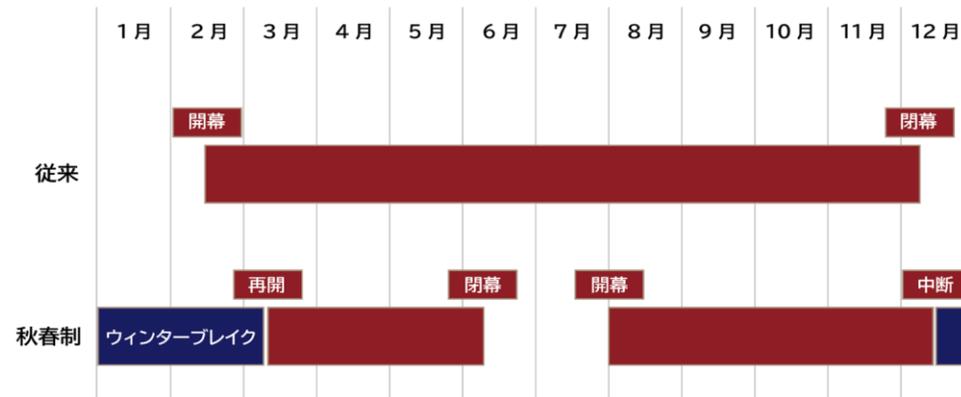
ファクトベースで、ホームタウンエリアの猛暑日が増え続けている状況。  
安心して競技に打ち込める環境保全のため、各クラブ、リーグ全体でのコミットメントを強化中

## 鹿嶋市の猛暑日



1990年初頭:ほぼゼロ → **2024年:12日 (過去最多)**  
猛暑の激増は、フットボール興行を揺るがす深刻な課題

## Jリーグ秋春制への移行&SPL参画



選手の安全とパフォーマンスを守るための「**生存戦略**」

**サステナビリティはフットボールの存続に関わる、最優先の経営課題**

# 潮流：Jリーグとして「Sports Positive Leagues」に参画決定

環境・社会領域での取り組みを国際基準でスコアリングするSPLへの参画。「資源循環」も評価指標に盛り込まれ、来シーズン以降、発信面含め「待ったなし」の取り組みが求められる状況

## 4月にアジア初となる参画発表

アジア初となるSport Positive League (SPL) 参画を決定 - Jリーグ全体でサステナビリティ事業を推進- [一読へ>](#)

2025年4月22日(火) 16:30

アジア初となるSport Positive League (SPL) 参画を決定 - Jリーグ全体でサステナビリティ事業を推進-

Jリーグニュース



## Sports Positive League 概要



CLUB	Policy and Commitment	Clean Energy	Energy Efficiency	Sustainable Transport	Single Use Plastic Reduction or Ban	Waste Management	Water Efficiency	Plastic Based Low Carbon Food	Biodiversity	Education	Climate & Engagement on Sustainability	Sustainable Procurement
1. TOTTENHAM HOTSPUR (24/2)	2	2	2	3	1	2	2	2	2	2	2	2
1. LIVERPOOL FC (24/2)	3	2	2	3	1	2	2	2	2	1	2	2
2. MANCHESTER CITY FC (23/2)	2	2	2	3	1	2	2	2	2	1	2	2
4. SOUTHAMPTON FC (23/2)	1	2	2	2	1	2	1	2	2	1	2	2
5. BRIGHTON & HOVE ALBION (19/2)	0.5	2	2	2	1	2	2	2	1	1	2	2
6. ARSENAL (18/2)	1	2	2	1	1	2	2	2	1	1	2	1
7. WOLVERHAMPTON WANDERERS (15/2)	2	2	2	2	1	1	1	1	2	1	2	0.5
7. MANCHESTER UNITED (17.5/2)	1.5	0.5	2	1	1	2	2	2	1	0.5	2	2

名称	Sports Positive League (スポーツポジティブリーグ、略称 SPL)
仕組み	サッカークラブの気候アクションを数値化し、その進捗や目指すべき方向性をわかりやすく把握できる仕組み。 SPLへ各クラブから報告された気候変動対策にとって重要な12項目の取り組み状況について、独自の評価基準マトリクスを用いて定量的に効果分析が行われる。エネルギー、廃棄物、交通など、カテゴリーテーマ別に加重を設けて総合点を算出。SPLからスコアとリーグテーブル(順位表)が公表され、活動内容とともに参画する全クラブが横断的に紹介される。
運営組織	SPORT POSITIVE (イギリス) / 公式サイト <a href="https://www.sportpositive.org/">https://www.sportpositive.org/</a>
創設	2018年、創設者 クレア・プール (UEFA環境諮問委員 他)
その他参画リーグ	プレミアリーグ(イングランド)、EFLチャンピオンシップ(イングランド) ブンデスリーガ(ドイツ)、リーグアン(フランス) Jリーグは2025年の準備期間を経て、2026年1月から正式に参画(アジア初)
対象事業	参画リーグのクラブが実施する気候アクションのうち下記の12のカテゴリーに関する事業 (1)ポリシーとコミットメント、レポート、(2)再生可能エネルギー、(3)エネルギー効率 (4)環境負荷の少ない移動手段、(5)使い捨てプラスチック削減・廃止、(6)ゴミの削減管理 (7)水の効率的な利用、(8)プラントベース・低炭素食品、(9)生物多様性、(10)教育 (11)コミュニケーション、(12)持続可能な調達
ランキングと評価	評価と公表のスケジュールは各リーグごとに設定される
導入後の変化例	SPL導入後の変化として、2018年から参画したイングランドプレミアリーグの場合、2023年には16クラブがウェブサイトにサステナビリティページを開設し、6クラブが「CO2排出量ネットゼロ」の目標を掲げている。さらにトップ選手がリサイクル推進や電気自動車利用、植物性食品摂取などを紹介する動画に出演し、気候アクションに参画。こうした動きはクラブの経営にも好影響をもたらしている。

出所：Jリーグ公式ページより  
<https://www.jleague.jp/news/article/30781/>

# クラブのサステナビリティ方針

これからも、地域と持続可能な成長を続け、クラブの活動を通して、価値還元を実現していくための方針を策定  
3つのテーマに分け、ステークホルダーを巻き込みながら、個別アクションに落とし込みへ

## Planet (地球)



クラブの活動による環境への影響を最小限に抑え、気候変動に適応した持続可能な競技環境を守ります。

## Family (地域・パートナー)



地域社会やパートナー企業と連携し、地域の課題解決と持続的な発展をともに実現します。

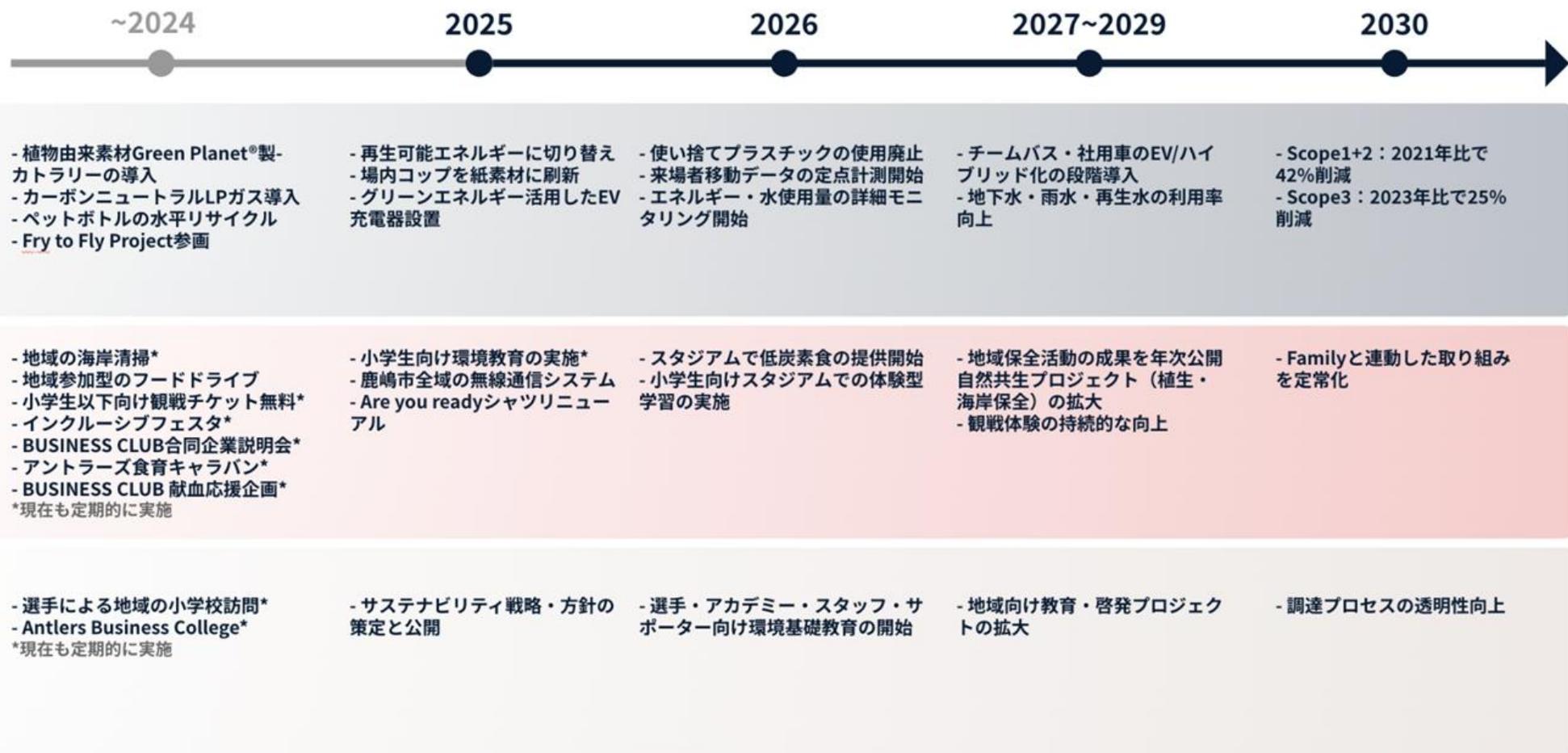
## Spirit (哲学・ガバナンス)



教育や発信を通じて、サステナビリティへの関心と行動を広げ、地域や社会にポジティブな影響を届けていきます。

# アントラーズのサステナビリティロードマップ

Sports Positive Leagues の指標、有識者との交流・助言も取り入れながら長期的な視座を持ち  
アクション積み重ねへ



## 参考) 既に開始されている具体アクション

パートナー企業のアセットやナレッジを借りながら、スタジアム、ホームタウンなどのフィールドで様々な取り組みを推進～サポーターの巻き込み・興味喚起を積み上げ

再生可能素材製の資材（コップ・カトラリー・ショップ袋等）使用

ペットボトルの回収  
水平リサイクル

エコステーションでの分別促進  
Re Cup Washerの導入

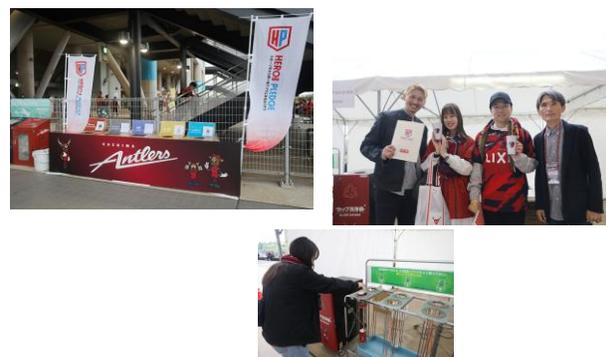
スタジアムへのグリーン電力供給  
エネルギーの地産地消の推進



w/カネカ・東洋製罐HD



w/サントリー



w/東洋製罐HD  
(日本財団)



w/オクトパスエネルギー・常陽銀行グループ

# 官民連携の新規実装：アントラーズSAF ←NEW！

サステナビリティに関連するクラブ独自の取り組みとして、関連業界団体、行政と連携の上、廃食油回収→再生航空燃料（SAF）化の取り組みをクラブがリード

SAFとは・・・

## SAF (Sustainable Aviation Fuel)

循環型原料由来(廃食油など)の、  
環境にやさしい航空燃料

- + CO2排出量の削減
- + 既存インフラで製造可能
- + 国産原料で製造可能
- 製造コストが高い

世界的な使用圧力強化の中、原料高騰により、国内での原料確保・製造に苦戦している状況。

微量でも回収～気運をつくる意義は大きいため、IPホルダーとしてムーブメントを起こしていきたい

## 検討スキーム



# アントラーズSAF 実装イメージ

クラブを中心に、各ステークホルダーが一丸となり、廃食用油の回収～SAF化を推進、アントラーズの象徴的なサステナビリティアクションとして発信、人々の行動変容へ



## KASHIMA FLY! PROJECT ※仮称

クラブの呼びかけで、賛同（廃食用油提供・発信協力）企業を募り  
回収量を増やし、取り組みとしての”実”の強化を目指す

### クラブ

- ・クラブ施設（食堂・選手寮）
- ・スタジアムでの回収

### 行政

- ・公民館等行政施設での回収
- ・給食センター

### パートナー企業

- ・レストラン等
- ・社員食堂
- ・社員寮

専門事業者のレボインターナショナル社が各社から回収（買取）の上、  
Fry to Fly 構成企業のコスモ/日揮HD/SAFFIRE SKY ENERGYでSAFに精製



**Football  
Dream**

**O N E**